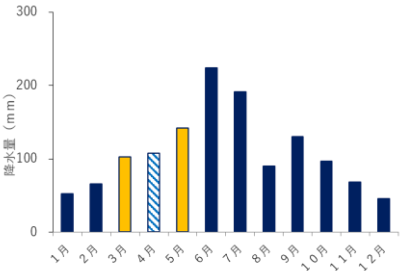
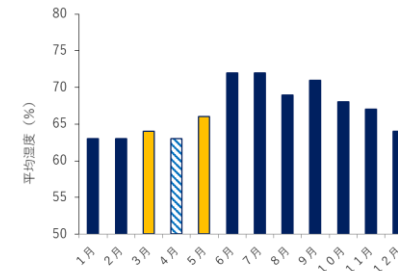
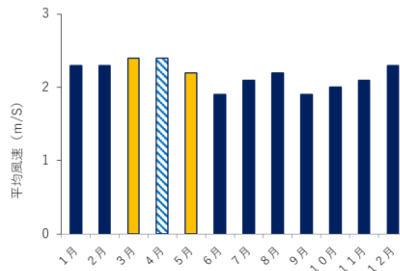
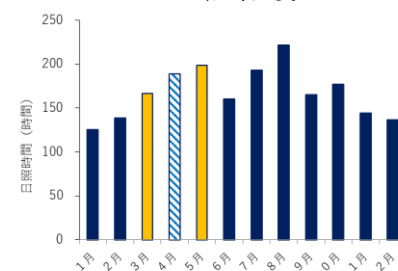










項 目	作 業 内 容
<p>(2) 林野火災の消火と復旧について</p> <p>①消火</p> <p>②火災跡地の復旧</p>	<p>[日射・日照]</p> <p>日射は可燃物の乾燥と関係が深く、落葉樹林は常緑樹林に比べ、落葉期林床に直射日光が届くため乾燥しやすく、燃えやすい状態となる。</p> <p>松山市の月別の降水（合計）・相対湿度（平均）・風速（平均）・日照時間(合計)は図3のとおりである（1981～2010 までの30年間の平均、気象庁ホームページ）。各項目とも、林野火災の発生等を助長する数値であることがわかる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>降水量</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>相対湿度</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>風速</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>日照時間</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">図3 松山市の月別の気象データ</p> <p>林野火災の消火は、通常可燃物の供給を絶つ方法（臨時防火線の設置等）、熱を下げる方法（注水等）、酸素の供給を絶つ方法（土かけ等）がある。林野火災では、水利条件が悪い場合が多く、最も有効な注水による消火が難しい場合が多いため、他の方法との組み合わせによることが多い。そのため、消火は非常に難しく危険であり、体力の消耗も激しい。</p> <p>林野火災の被害が甚大になると、林地の条件次第では森林の再生が難しくなる。これを復旧するためには、多額の費用と多くの労力、長い時間が必要となる（写真1）。</p>

項 目	作 業 内 容
<p>(3) 林野火災の防止について</p> <p>①林野火災の原因</p> <p>②林野火災の防止について</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>火災の様子 (H20.8.25)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>火災直後の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>山腹緑化工の取組み</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>航空実播工</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>H21.7の全景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>H26.7の全景</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">写真1 大規模林野火災と火災跡地の復旧状況</p> <p>令和元年度の全国の林野火災件数は1,391件で、その出火原因は「たき火」によるものが433件(31.1%)と最も多く、次いで「火入れ」262件(18.8%)、「たばこ」76件(5.5%)、「放火の疑い」73件(5.2%)の順となっている(消防庁特殊災害室)。</p> <p>林野火災の原因は、前述のとおり人為的なものがほとんどである。森林利用者1人1人が、たき火をする場所に注意すること、後始末を完全にすること、喫煙は指定された場所で行い、吸い殻は投げ捨てしないこと、チェーンソー等の燃料の近くで火気を使用しないこと等林野火災に対しての防火意識を徹底することが何よりも重要である。</p>

(作成 林業研究センター)